

放送 & 芸能

「留学生シリーズ」最終章に

中国人女性ディレクター 張麗玲さん

来月3日フジ「泣きながら生きて」

母国からの留学生を撮ったドキュメンタリーを撮り続けてきた中国人女性ディレクター・張麗玲さん(37)。留学生シリーズ六作目で、最終作となる「泣きながら生きて」が来月3日午後九時、フジテレビで放送される。飛び込み同然で、同局にカメラを借りて訪れてから十年。異国の地で奮闘する仲間との姿を追ってきた張さんが、ビデオカメラを置くと、

「多額の借金をし、夢生を記録する強い使命感にかけ、すべてを捨てて日本に来る留学生は、人間の持つ力、勇気、歴史のさせられる。歴史の一言として、放送されても、映像に残しておきたかった」

こう話す張さん自身も留学生。日本の商社に入社した一九九五年、留学

しかし、カメラを回したことが一度もない素人の提案は、当然断られ続ける。「知り合いの知り合いのツテで、最後に訪れた」のが当時、新宿区にあったフジテレビ。そこで、横山隆晴プロデューサーと面会、その日に発売直後の小型デジタルカメラを渡された。「思いの強さが群を抜いていた。何か生み出すと直感した」と、横山さんは初対面の目を振り返る。

異国で「仲間」追い10年

「これ以上の作品撮れない」

「中国からの贈りもの」の三作品を発表した。中国各地では、日本では放送されなかった張さんの作品も数本放送されているという。

その後、張さんが接触した留学生は三百十五人。そこから、長期に撮影する六十六人を絞っていった。張さんの取材から、フジでは、二〇〇〇年に中国人少女が日本で懸命に生きる姿を追った「小さな留学生」を放送。続編が制作されるほど大きな反響を呼び、放送文化基金賞など数多くの賞を受賞した。その後も、「若者たち」「私の太陽」



「泣きながら生きて」のワンシーン、丁さん(右)と張さん(左)は東京で13年ぶりに再会する



チョウ・レイレイ 1967年、中国浙江省生まれ。女優として北京で活躍した後89年に留学生として来日、東京学芸大学・大学院で学ぶ。95年、旧大倉財閥の中堅商社、大倉商事に入社。入社半年後から、仕事と両立させて、ドキュメンタリーの制作を開始する。98年、大倉商事、フジテレビの出資を受け、CS放送会社「大富」を設立し、社長に就任。中国の国家テレビ局「中国中央電視台」などの番組を日本で放送する事業を主に行っている。

「泣きながら生きて」は、上海、東京、ニューヨークと、離れて暮らす壮絶な中国人の家族を十年間にわたって撮影、家族のきずなとは何かを問う作品。六十分テープで五百本を超えた取材記録を、約二時間に凝縮した。

「泣きながら生きて」の月日がたっていた。借金返済が環境になく、やむなく不法滞在者に。一人娘にすべての夢を託した丁さんは東京で働き続け、娘が海外留学するための学費を稼ぎ続けている人、現状に不満がある人は、丁さんの生き方から勇気をもらえたい」と話す。

言いたい放談



湯川れい子

「劉徳華が一位となった。二世代にわたって一位に選ばれた」というのは前代未聞のことである。劉の俳優としての業績と成功が、世代を超えて共感を集めたということだろう。

香港 アジア通信



釜山国際映画祭で「栄誉賞」を受賞したアンディ・ラウ

香港の俳優・劉徳華(アンディ・ラウ)が、今月開催された釜山国際映画祭で、二〇〇六年度最も映画界に貢献した人に贈られる「栄誉賞」を受賞した。

飛躍するアンディ・ラウ

ラジオの公開生放送のため、徳島まで行って来た。テレビというなら話は分かるが、今時ラジオの公開放送なんて、あまり聞いたことがない。オンエア開始は朝の九時だから、会場には八時までに入ってくださと言われて、一瞬耳を疑った。

胸を打たれたラジオ公開生収録

はNHKの村上信夫アナウンサー。軽妙な対話が絶妙のコンビだ。今回のゲストは作曲家の宮川彬良氏と私で、「音楽の力」についての二時間半。

(音楽評論家)